

早稲田大学総長 殿

2009年 5月 7日

所 属 文学学院
資 格 教授
氏 名 肥田 路美 印

特別研究期間研究成果報告書

1. 研究課題： 仏教美術における唐様式の成立と展開
2. 研究期間： 2008年 3月 26日 ～ 2009年 3月 25日
3. 研究場所(国/都市・機関名)： 中国/北京市・清華大学
4. 研究成果概要(2,000字以内)：

本研究課題は、博士学位請求論文『初唐仏教美術の研究』をまとめるべく計画したもので、一年間の特別研究期間中に、全十四章のうち十二章分以上を書き上げることができ、一定の成果を得たと自己評価している。以下に経緯と成果の概要を報告したい。

研究は、四月から六月は日本に於いておこない、七月から十二月末まで中国北京の清華大学に拠点を移し、一月から三月の期間終了まで再び早稲田大学にて実施した。申請時の計画よりも在外の期間を短縮したのは、大学院生の研究指導や嘱任されている日本学術振興会でのプログラムオフィサーとしての業務など諸般の都合によるものであったが、結果的には、序盤の三ヶ月間に研究の準備を整え、中盤半年間の中国滞在中に現地研究者らとの共同研究や現地調査によって肉付けをおこない、最後の三ヶ月で集中的に執筆するというかたちが表現し、効率的であったと考える。

清華大学では、訪問学者の身分で美術学院史論系(受入教員は李静傑教授)において研究をおこなった。大学構内にある訪問学者用宿舎の提供をはじめ、学内各図書館などの施設利用についても最大の便宜を受け、きわめて快適な研究環境であったが、人文学系の図書資料については十分とは言えず、隣接する北京大学を利用することとなった。半年の滞在期間中、李教授ほか関係分野の教授らや大学院生など若手研究者たちと、頻りに研究交流の場をもつことができ、特に七月に三週間、李教授と大学院生らの現地調査行に同行して山西・河南・河北省の寺廟壁画と群小の石窟遺跡を踏査、『無量寿経』所説の法蔵菩薩四十八願を堂内左右壁に画いた、他に類例を知られていない太原永寧寺壁画など、新たな発見を含めた多くの成果を得た。永寧寺壁画については、李静傑教授との共同執筆で報告論文を執筆した(『故宫博物院刊』に掲載予定)。また、清華大学美術学院では、初唐仏教美術に関する二回の特別講義をおこなった。

中国滞在中には、このほか敦煌研究院、蘭州大学敦煌学研究所、中国社会科学院考古研究所、四川省文物考古研究院において、それぞれ研究交流や共同での現地調査を実施した。なかでも、敦煌研究院および蘭州大学とは、早稲田大学文学学院との間の箇所間交流協定締結を進め、現在のところ調印を待つだけの段階に至っている。なお、蘭州大学では二回にわたって特別講義をおこなった。また、四川省文物考古研究院においては、十二月に明治大学(文学部氣賀澤保規教授)と三機関共同による安岳臥仏院の刻経調査を開始し、七十年代に採拓された拓本資料の詳細な調査とともに、安岳県の現

